



# キャベツ・ブロッコリーにおけるセル成型育苗の管理ポイント

片岡 真由子

近年、夏期の異常高温によりキャベツやブロッコリーの育苗時のトラブルが増えつつあります。特に、昨年は暑さで生育不良が引き起こされたり、苗が焼けてしまう事例が見られました。そこで、夏期高温時におけるセル成型育苗の管理ポイントを紹介します。

## 1. 発芽までの管理

は種後には十分にかん水を行い、乾燥を避けましょう。

かん水が不十分だと種子の吸水にバラつきがみられ、発芽率が低下します。

直射日光を避け、風通しの良いところにセルトレイを積み上げましょう。

は種後は、風通しが良く直射日光の当たらない場所にセルトレイを積み上げて発芽を促します。また、スポットクーラー等を利用して発芽適温で管理することで、発芽揃いや発芽率の向上が期待できます（写真1）。



写真1 スポットクーラーで発芽適温に管理

芽切り後の急激な温度変化を避けましょう。

芽切りを確認したら、急激な温度変化を避けるために気温の低い夕方セルトレイを広げます。キャベツは24～36時間程度、ブロッコリーは

24時間程度を目安とします。朝にセルトレイを広げる場合は、乾燥防止のため白色寒冷紗で1日覆い、急激な温度変化を避けましょう。

## 2. 苗場での管理

かん水は午前中に行い、夕方には培土の表面が乾くように調節しましょう。

発芽後の水は基本的に午前中に行いますが、この暑さでは、昼頃には乾いてしまいます。乾いている部分を中心に、午後にも全体に葉水を打ちましょう。ただし、夜間に水が多く残ると徒長や病気の原因となるため、夕方には培土の表面が乾くよう水分量を調節します。また、並べたセルトレイの外側に位置する部分は乾燥しやすいので、苗の揃いを良くするために適宜外側と内側を入れ替えます。

育苗ハウス内の風通しを良くしましょう。

育苗ハウス内には熱気がこもりがちなので、風通しを良くしてハウス内温度を少しでも下げましょう。ハウス内が暑くなりすぎる場合には、風通しを優先するために開口部の防虫ネットは取り外し、薬剤などによる害虫対策を行いましょう。また、扇風機でハウス内の空気を動かしたり、今年、一部で話題になっている「簡易外気導入システム」を設置してハウス内環境を改善するのも良いでしょう。

遮光資材を利用しましょう。

人が強い日差しの下で過ごすのはつらいように、日差しが強すぎる環境は植物にとっても厳しい状況です。生育初期で日差しが強いときには、

白色寒冷紗等で遮光しましょう（写真2）。ただし、気象条件によっては遮光により徒長してしまう可能性もあります。一方で、昨夏は遮光資材を外すと、日差しが強すぎて苗が焼けてしまったケースも見られました。天気と苗の状態をよく見て、こまめに遮光の有無を調整しましょう。

また、光合成に必要な可視光は通過させ、熱源となる赤外線を遮る「遮熱資材」を活用するのも良いでしょう。

根張り促進剤を活用しましょう。

昨夏は非常に暑く、セル苗の根鉢の形成が遅れ、なかなか定植できない事例が多く見られました。は種から約2週間後の液肥処理時に、ソイルサプリエキス（100～200倍、500ml/セルトレイ）などの根張り促進剤を混用すると根鉢がしっかり形成されます。

## 3. まとめ

異常ともいえる高温下で育苗管理をするには、残念ながら、どれか一つだけ対策を取れば十分とはなりません。複数の対策を積み重ね、少しでも栽培環境を改善することが重要です。苗の生育状況等をよく観察し、こまめな管理を心がけ、健全な苗を計画どおりに作りましょう。



写真2 白色寒冷紗での遮光